



## 「健やかな子」を目指して

校長 関原 秀明

先月20日には晴天の下、小中運動会を盛大に開催できました。地域の皆様、保護者の皆様には多数ご来場いただき、力強いご声援ありがとうございました。また、育成会の役員の皆様には、駐車場の誘導、テントの設営・撤収にもお力添いをいただきました。重ねてお礼申し上げます。

先月の学校便りでもお知らせしましたように、本校が目指す子供像の一つは「健やかな子」です。運動会は、その目標を実現するための絶好のチャンスだと考えています。



「健やかな子」として身に付けてほしいことは、次の2点だと考えています。

- ①仲間と体を動かすことの心地よさに気付き、目当てをもって運動に取り組む力
- ②生命や健康の大切さに気付き、自分の生活の在り方を主体的に考え、行動する力

特に②は、近年、その重要度がますます高まってきているように思います。食習慣、睡眠時間、メディア(テレビ、ゲーム、スマホ等)との付き合い方が少しずつ変化してきている現状に気付いても、我々はずい、「時代の流れだからある程度仕方がない」と捉えがちです。しかし、事態はそれほど甘くないようです。とりわけ、**メディアが成長期の子供の脳に与える影響は深刻**です。

著名な脳科学者川島隆太氏が監修し、横田晋務氏が著した『やってはいけない脳の習慣』には、子供へのアンケート調査、知能テスト、脳のMRI画像を使った分析を基にして、脳とメディアの関係性がまとめられています。問題の深刻さを示すとともに、そうした問題に対して、学校で、そしてご家庭で取り組むべきことにヒントを与えてくれます。少し紹介します。

「長時間ゲームをする子どもは、言葉に関する能力が低く、長期的にもその能力が発達しにくい」「記憶や自己コントロール、やる気などを司る脳の領域における細胞の密度が低く、発達が阻害されている」「どんなに勉強時間が長くても、ゲームをしてしまうとその効果が打ち消されてしまう」「長時間のテレビ視聴は、言語能力、運動能力や攻撃性を司る脳の領域に悪影響を及ぼす」という分析です。

そんなに悪影響なら、使用を禁止、制限すればよいということになるのですが、子供は隠れて使ってしまう可能性もあります。そこで、学校でも、ご家庭でも「今の楽しみが自分の脳の発達にどのような影響を与えているか、ひいては将来の自分に悪影響を及ぼすものであるかを、まわりの大人が分かりやすく説明」し、「自分のこととして認識」させ、自分でコントロールすることが必要だと提案されています。

学校では、保健委員会が主体となり、「ふれあい週間」を今月26日より始めます。テーマは「メディアと上手に付き合いおう」「時間の使い方を工夫しよう」です。ご家庭でも子供と一緒に考えていくなどの働きかけをお願いします。

# 学校生活の様子から

○ 5年生が、りんごの摘果、袋かけに取り組みました。(5/23)



○ 6年生が、ものづくり・デザイン科の作品づくりを始めました。(5/30)



○ 西山相撲大会で熱戦が繰り広げられました。(5/31)  
学年別個人戦と団別団体戦が行われました。



○ 4、5年生が挨拶運動に取り組みました。(5/24~30)



○ 3年生が、高岡市内めぐりに出かけました。(6/9)



## お知らせ

17日(土)は学校参観日です。3限創校記念式、4限授業参観、給食試食会(1年のみ)、清掃参観、5限授業参観、引き渡し訓練が行われます。ご来校をお待ちしています。